



# ゆめ通信

## 2023.11.1. No.130

発行 日本養豚事業協同組合

〒104-0033 東京都中央区新川2-1-10  
八重洲早川第2ビル6階

TEL.03-6262-8990 FAX.03-6262-8991

## 第24期北海道支部セミナー開催報告

第24期北海道支部セミナーは9月15日（金）札幌市のネストホテル札幌駅前にて開催されました。中岡亮太支部長より「九州で豚熱が発生し、輸出できるのはいよいよ北海道だけという状況で安定的な生産の継続が求められます。しかし、コロナで中断された豚事協支部セミナーも4年ぶりに開催される中で状況は一変しました。資材やエネルギー高騰、餌高と養豚経営を取り巻く環境は悪化傾向であり、その中で生産を続けていくには今回のテーマでもあるベンチマーキングで経営数値のミエル化をしていくことは非常に大切です。有意義なセミナーなるようにみなでしっかり勉強していきたい」との挨拶で開会されました。久々の開催ということもあり64名の参加となりました。

最初の講演は、松村理事長より「勝ち残る養豚経営に向けて」と題してご講演頂きました。

「ようやく終わりが見えかけてきた餌高の中で、畜産全体の危機ということで出た真水の補助金に報いるためにも、我々養豚生産者に答えられることは豚肉自給率48%を維持していくこと。その支えになるべく豚事協では共同購入事業としてどんな規模の農場でも餌・種豚・精液・資材など少しでも安くして経営を維持できるように努めている。養豚業界には関税等による特定財源もなく国の支援には限りがある。その中で経営を続けていくには正確な経営数値をつかみ自社の強み弱みを理解していく必要がある。JASVベンチマーキング2022年の結果では、母豚1頭当たりの年間利益が上位10% 66万円、下位10% 20万円とその差は3倍と大きな開きになっている。同じように養豚していてこれだけの差がでてしまう。しかし、上位10%のように改善していけるヒントがベ

ンチマーキングの指標に表れている、指導できる獣医師の先生方がいる、素晴らしい仕組み。それを可能にするのは他のベンチマーキングでは明かされていない餌の価格が織り込まれているから。ぜひJASVベンチマーキングに加入していただいて継続できる養豚経営を選択してほしい」と豚事協が進めてきたビジネスモデル「良い豚・良い餌・良い管理」を改めて紹介するとともに、この厳しい環境の中で勝ち残るにはベンチマーキングによって正確な経営数値を理解して改善していくことと強調されました。

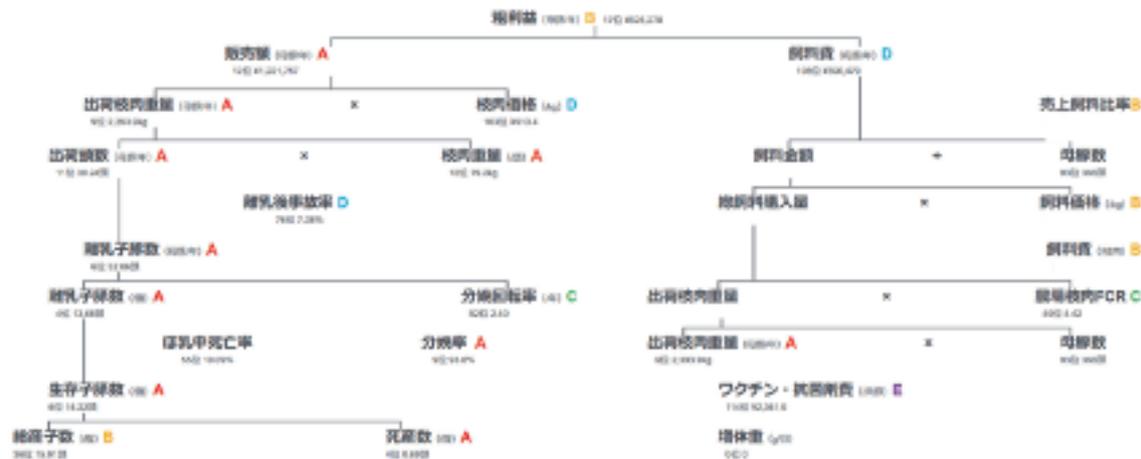
またその後、豚事協事務局より共同購入の看板商品であります深部注入カテーテルや人気商品となった高分子凝集剤や新製品の有機亜鉛「ミネラル亜鉛50」や「ネオドリンク®-S」などの案内も行いました。

続く講演は、有限会社アクティブピッグ取締役・山本雄大氏より「JASVベンチマーキングの活用例」と題してご講演頂きました。

### ○農場情報

- ・愛知県西尾市
- ・母豚370頭
- ・品種：Topigs（PS導入）、デュロック（購入精液：メンデル）
- ・飼料：配合飼料（やまびこ会）
- ・年間出荷頭数：11000頭

「養豚一家三代目として就農して6年、何もわからない中ベンチマーキングによって自分の立ち位置がわかり、自社の現状や自分たちの豚に愛着と誇りを感じることができた。そして、現在の養豚経営に関わる課題はウクライナ戦争における穀物供給不安や飼料価格高騰、国内で感染が続くCSFやアジアで蔓延し日本にも上陸する恐れがあるASFがあり、それ



図① アクティブピッグのベンチマーキング2022年

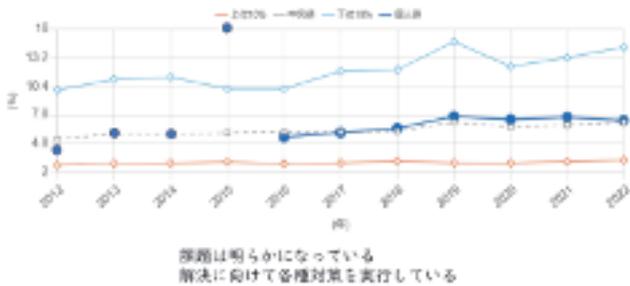
に対処するにはより一層のバイオセキュリティの強化が必要のため、コストも増加している。経営を続けていくには生産性の向上とコスト削減を徹底していくことが必要だとわかってきた。その指標となるのがまさにベンチマーキングで、弱点や課題の発見し、お金の動きを理解し、農場資産の証明となる。また自社では特に従業員の士気があげられることもよいポイントで従業員が誰でもベンチマーキング結果を見ることができるようにしており、定期的なミーティングでは次はこうしようなど具体的に従業員から発言できる環境になっている。例えば、2022年のデータからは離乳後事故率が判定D7.08%で、ここが改善ポイントで次は5%まで下げよう、そしてワクチン・抗菌剤費が判定E2361.9円で、こちらもあわせて下げていきたいと話合っている。数値を具体的につかんだうえで日々の仕事の段取りや目標を設定してやる気を生み出すことができています。」

講演の中で各指標を提示され、どれも右肩上がりに改善している中で、分娩率に関しては「分娩率は従業員の定着、技術の安定化によるものが大きい。毎年同じ担当が種付けしていて、安定しておりまた技術を向上させている。現農場長になる前は分娩率85%と不安定だったが、90%を超え、今も徐々に改善している。長年分娩舎を担当している方と農場長が結婚し、繁殖部門では家庭内まで入り込む密なコミュニケーションがありがたいことに、当社の強み。一方で参加するやまびこ会では数年前までは2位、3位と上位だったのが昨年は7位と他の会員

が成績を大きく伸ばしていることから後退しており、課題もあるので従業員一丸となってみんなでもっと励んでいきたい」とベンチマーキングを活用して成績向上してきた経緯と(有)アクティブピッグの風通しのよい社風と密なコミュニケーションが紹介されました。

最後の講演は、有限会社あかばね動物クリニック取締役獣医師・水上佳大氏より「(有)アクティブピッグのコンサルティングとJASVベンチマーキングについて」と題してご講演頂きました。

「(有)アクティブピッグでの2012年から2022年のこの10年間を比較すると、高能力種豚Topigsの導入やクランブル飼料へ切り替え、国内での口蹄疫や豚熱発生に対応するべく向上した防疫レベル、そして三代目の山本雄大氏をはじめ若手従業員が増えたことにより成績は大幅に向上している。(図③参照) 毎年ベンチマーキングを通して他農場より低い順位を優先して対応していくことで、課題は明らかになっており解決に向けて各種対策を実行している。」と紹介されました。また続いてJASVベンチマーキング自体の説明で今まで継続してきたことによって日本全体の傾向がわかってきたことの1つ1つの指標を丁寧に解説していただく中「2012年1母豚当たりの年間粗利益の上位10%と下位10%の差が20万円程度だったが、2022年には差額46万円と倍以上に広がっている。(図④参照) これは上位の農場が生産性を大きく向上している中で、下位の農場はあまり変化がなかったため起きたと推察される。特に1母豚当たり年間枝肉



図② アクティブピッグ離乳後事故率



図③ (有)アクティブピッグ社員全員でドッジボール大会参加

有限会社アクティブピッグ  
2012年と2022年の比較：繁殖

	2012年	2022年	比較
総産子数/腹	11.7	15.9	+4.2
生存産子数/腹	11.2	15.2	+4.0
離乳頭数/腹	10.5	13.7	+3.2
分娩率	85.8%	98.1%	+12.3%
分娩回転率	2.41	2.40	-0.01
離乳頭数/母豚/年	25.4	32.9	+7.5

有限会社アクティブピッグ  
2012年と2022年の比較：肥育

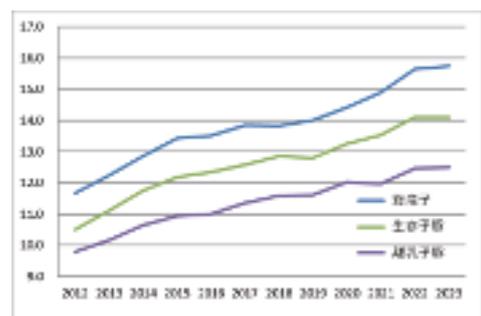
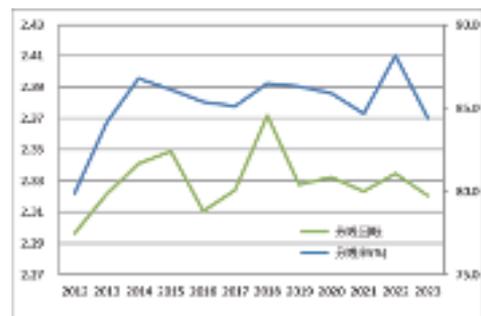
	2012年	2022年	比較
離乳後事故率	4.1%	7.1%	+3.0%
農場枝肉FCR	5.02	4.42	-0.60
出荷頭数/母豚/年	22.5	30.2	+7.5
枝肉重量/頭	76.5	79.2	+2.7
枝肉重量/母豚/年	1725.6	2393.9	+668.3

図④ (有)アクティブピッグ10年成績比較

	2021	2022	2023	1年間の変化	3年間の変化
農場数	19	19	18	-1	-1
成メ♀稼働頭数	3,823	3,848	3,646	-202	-219
年間肉豚販売頭数	89,904	99,750	96,039	-3,711	20,768
年間子豚・肉豚・繰出	94,588	104,857	100,720	-4,137	22,100

	2021	2022	2023	1年間の変化	3年間の変化
農場数	19	19	18	-1	-1
<b>繁殖成績</b>					
♀稼働頭数	196	203	203	0	9
一腹当り					
総産子	14.9	15.6	15.7	0.1	1.3
死産数	1.4	1.5	1.6	0.1	0.5
生存子豚	13.5	14.1	14.1	0.0	0.9
離乳子豚	12.0	12.5	12.5	0.1	0.5
死産率(%)	9.0	9.9	10.3	0.4	1.7
哺乳斃死(%)	10.9	11.2	11.2	0.0	2.3
分娩回転	2.32	2.33	2.32	-0.01	-0.01
分娩率(%)	84.7	88.1	84.4	-3.72	-1.48
年間♀廃用(%)	39.0	48.9	44.2	-4.7	-0.1
<b>年間離乳子豚</b>	<b>27.8</b>	<b>29.1</b>	<b>29.1</b>	<b>-0.0</b>	<b>1.7</b>

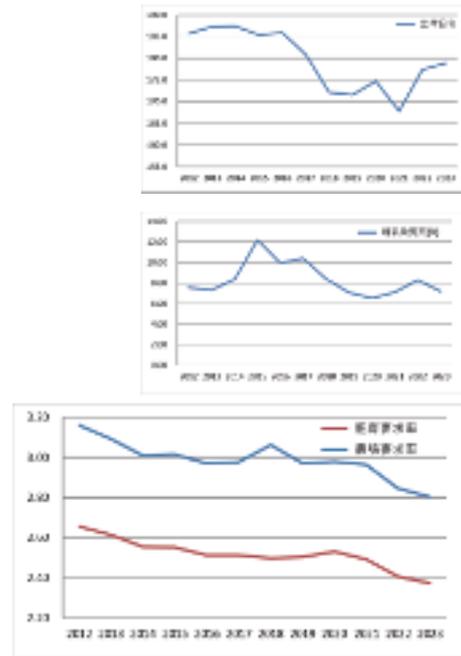
図⑤ やまびこ会成績表2021年～2023年



出荷重量が2000kgを超える農場が40農場を超え、1母豚当たり年間離乳頭数が31頭を超える農場が13農場と高能力種豚導入による変化が著しい。」と日本における傾向をご指摘いただきました。また、JASVベンチマーキングの加入方法、利用方法も「2023年か

ら参加した場合も、2022年以前のデータを入力、解析結果を見ることが可能。解析結果は随時Webシステムで見ることができ。また、四半期に1度（計4回）と年間（1回）、解析データを冊子にして送付。Webシステムの利用で不明な点はJASV事務局で電話

	2021	2022	2023	1年間の変化	3年間の変化
<b>肥育成績</b>					
年間肉豚販売	89,904	99,750	96,039	-3,711.0	20,767.6
(肉豚体重kg)	118.6	118.2	119.5	1.2	1.8
枝肉重量(kg)	364,866	403,462	415,254	11,791.5	1,920.1
(枝肉平均重kg)	77.0	76.9	77.6	0.8	1.1
年間子豚・肉豚・繰出	94,588	104,857	100,720	-4,137.0	22,099.6
(全平均体重kg)	117.0	116.5	116.6	0.1	2.0
出荷日令	167.8	177.3	178.9	1.53	4.18
上物%	62.1	63.5	64.2	0.7	3.1
<b>肥育要求率</b>	<b>2.49</b>	<b>2.40</b>	<b>2.37</b>	<b>-0.03</b>	<b>-0.16</b>
0-110kg換算	2.40	2.33	2.28	-0.05	-0.15
<b>農場要求率</b>	<b>2.97</b>	<b>2.85</b>	<b>2.80</b>	<b>-0.04</b>	<b>-0.18</b>
離乳後斃死(%)	7.11	8.27	7.19	-1.08	0.66
<b>♀当り年間販売</b>	<b>25.91</b>	<b>26.76</b>	<b>27.05</b>	<b>0.3</b>	<b>1.4</b>



図⑤ やまびこ会成績表2021年～2023年

またはZoomでサポート。農場の環境によりWebシステムの利用が難しい場合は、ExcelまたはFAXでのデータ提出も可能。」と詳細を説明いただきました。「自社の成績を開示するので、見返りとしてベンチマーク上の位置づけがわかり改善点が見えてくる。自分の情報を出さない人には情報ははいてこない。そして手にした情報をいつから改善を始めるかが重要」と重要なのは本人の決意と強調されておりました。

閉会の前には賛助会員の紹介が行われ、新商品や新サービスの紹介が行われました。会場では引き続き懇親会が行われ、講演会では時間不足できなかった質疑応答など各自が最後まで熱心に議論を交わし滞りなくセミナーは終了いたしました。(加藤)

JASVベンチマーキング 継続してきて分かったこと

- ・ 差の拡大：上位と下位※特に生産性
- ・ 折れ線は上から上位10%、上位25%、中央値、下位25%、下位10%の順に表示



図⑥ JASVベンチマーキング10年間の推移、母豚粗利益・母豚出荷枝肉重量

# 第24期東北支部セミナー開催報告

第24期東北支部セミナーは10月6日（金）仙台市のTKPガーデンシティ仙台にて開催されました。木村洋文支部長より「世界ではコロナ禍をあけて物価上昇が顕著であり、それにともない賃金の上昇もあり人材を確保するのが難しくなっている。日本も大幅な円安となり輸入に関わる物やエネルギーを中心に値上がりし、いよいよ物価があがってきた。人手不足傾向だった状況も人件費の上昇でさらに加速している。養豚に限らず多くの業種でも業界自体の縮小により人材が流動的になり自社でも銀行や流通小売りから社員を登用したが、人手確保はどんどん困難になっている。そのため不足する分はDX化で対応していく他ないため、例えば当社ではYEDIGITAL社の飼料タンク測定器MILFEEを活用して自動発注する仕組みをつくらうとしている。大きな変化が起こる現在、10年先を見据えて今何にチャレンジするか求められる時代となり、わくわくしている。頭をつかって経営戦略をねっていくことが大切だと思うのでぜひとも活発な意見交換を行ってこの場を生かしてほしい」との挨拶で開会されました。（参加者55名）

最初の講演は、山本副理事長より「勝ち残る養豚経営に向けて」と題してご講演頂きました。「改めて豚事協が進めてきた養豚ビジネスモデル良い豚・良い餌・良い管理を紹介し、組合員みなで勝ち残れる

ようにしていきたい。良い豚としてTopigs Norsvinの母豚にメンデルデュロック精液の利用。遺伝子改良のスピードは凄まじく、もはや数社に世界的に淘汰集約されていく時代は目前にきている。どれだけ豚肉の差別化販売をしても生産成績の向上による利益増にはかなわない水準となっている。JASVベンチマーキング2022年ではTopigs Norsvinが主要部門の上位3位まで多くランクインし、日本国内でも非常に存在感を見せている。しかも、この組み合わせでの肉豚の肉質も市場に受け入れられつつあり、味の評価からブランド化や飲食店の利用も進んでいる。良い餌として指定配合飼料ゆめシリーズを紹介。丸粒全粒粉碎のトウモロコシと大豆粕のシンプル配合で嗜好性の悪い原料を使わないことを原則としているため、豚がよく食べるし飼料効率も良いのがポイント。実際ベンチマーキング指標でも飼料費のランクより枝肉飼料費のランクが上昇するという傾向が多く利用者にみてとれるため、無駄のない飼料として機能しているのがわかる。また生産者自ら設計、変更に関わるため最新の知見を即反映することができるのも強み。実際人工乳のCP大幅ダウンや有機亜鉛採用、アミノ酸バランスの強化などどんどん変更してアップデートしている。良い管理としてはJASVベンチマーキングであり、自社の強み弱みを知り改善することを明示化できるツールであり、その指標に基

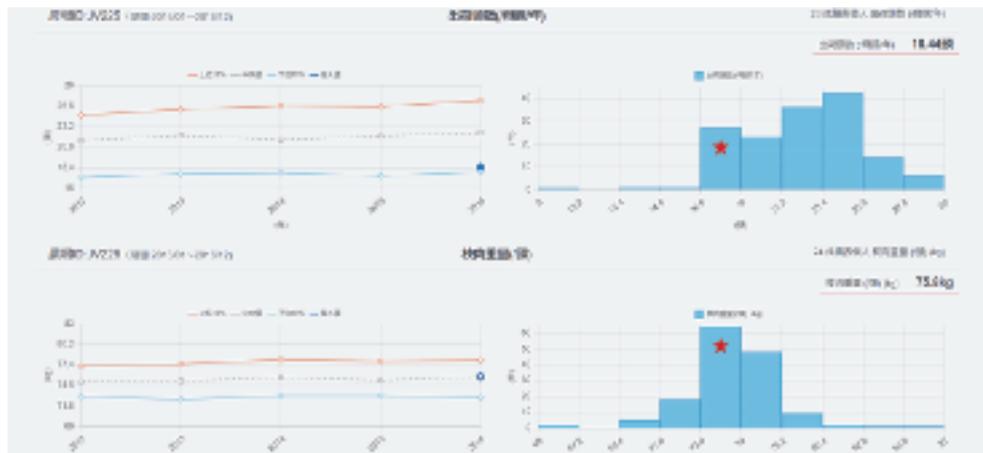
JASVベンチマーキング2022 成績優秀者

成績項目	順位	数値	使用品種
母豚1頭当たり 粗料量	1位	¥803,538	Topigs Norsvin
	2位	¥796,806	Topigs Norsvin
	3位	¥760,076	その他の多産系
成績項目	順位	数値	農場名
母豚1頭当たり 出荷枝肉重量	1位	2592.6kg	その他の多産系
	2位	2497.7kg	Topigs Norsvin
	3位	2495.7kg	その他の多産系
成績項目	順位	数値	農場名
母豚1頭当たり 粗乳子受産数	1位	35.32頭	その他の多産系
	2位	33.54頭	Topigs Norsvin
	3位	33.10頭	Topigs Norsvin
成績項目	順位	数値	農場名
農場枝肉FCR	1位	3.85	その他の多産系
	2位	3.88	Topigs Norsvin
	3位	3.89	その他の多産系

## ゆめシリーズの飼料効率の良さ

農場	飼料費	枝肉飼料費 (粗乳子あたり)	肉別枝肉FCR
A農場	D	→ C	C
B農場	C	→ B	C
C農場	F	→ D	B

飼料の価格と比較して、枝肉飼料費の方がランキングが高い  
→ゆめシリーズはお値段以上の価値がある！



松井畜産2016年成績、年間1母豚当たり18.4頭出荷



松井畜産2022年成績、年間1母豚当たり28.6頭出荷

づいてJASVの獣医師の先生方から指導してもらえると  
いう完成されたモデル。それぞれの項目において豚事協では紹介できる成功事例がそろっており、的確なアドバイスと安価で安定的な品物の供給を可能としている。養豚技術は今も進化し続けている、現状維持は後退の同じであり、ともに先に進むための協力を尽くしたい」と熱意を込めて語られました。

また、豚事協事務局より共同購入の案内と賛助会員によるプレゼンテーションの時間が設けられ7社が最新情報を提供しました。(オルテックジャパン、YE DIGITAL、明正工業、富士フィルムVETシステムズ、メンデルジャパン、Eco-Pork、アスコ)

続く講演は、有限会社松井畜産代表取締役・松井義輔氏より「JASVベンチマーキングの活用例」と題してご講演頂きました。

○農場情報

・静岡県湖西市

- ・母豚100頭から400頭へ増頭中
- ・品種：Topigs (PS導入)、デュロック (購入精液：メンデル)
- ・飼料：配合飼料 (やまびこ会)

「いったん就農するも両親と意見が合わず、6年間ソーラーパネルの設置の仕事に従事。当時太陽光バブルともいえる活況な状況できわめて過酷な労働の末、再び養豚業へ復帰することとなった。以前家族内で意見交換ができなかった反省も踏まえ、自社のデータを集めて数値をもとに話し合うことを始めていった。そのためベンチマーキングは非常に参考になるツールだった。母豚100頭の一貫経営で2016年当時は1母豚当たり20.5頭離乳、18.4頭出荷、農場枝肉FC5.04からのスタートで成績改善したくて色々な場所にいった勉強をした。その中で自家配合飼料の限界を感じてやまびこ会に入会し、やまびこ会の指定配利用、2019年からはTopigs導入など大きな変化を





いるのが、スティーブン・R・コヴィー氏の7つの習慣というもの。農場改善の階段として、まず訪問時の対応策の経時的効果の確認をJASVベンチマーキング、農場訪問レポート、と畜場の検査記録からみていく。そこでは生産者との協力の積み重ねが大切に常に今何をすべきかを共有していくことが必須。獣医師として入念な検査というものも大切だが、その場で起きている問題にすぐ対処しなければ経済的損失がでてしまうため即行動を厳守している。そして松井氏と話しあった結果としてグループシステムを採用することになった。私が考える成功する養豚場の条件として、スタートラインは産子数30頭以上、健康で良質な離乳子豚の生産すること。高能力種豚を選択し、母豚の免疫安定化のため馴致や適切なワクチン接種し、適正なボディコンディション管理のためにアミノ酸、カロリー、繊維の栄養をあたえること、母豚が便秘なく満足感ある体調であること、出生時子豚にはすぐに乾燥・保温・十分な初乳接種をさせて、戦略的に授乳期母豚と子豚の対応を行うことを徹底してお伝えしている。すでに養豚経営においてパラダイムシフトは起きており、経営を改善・変革していくには清水の舞台から飛び降りるような覚悟は不要で、高能力種豚を用いJASVベンチマーキングを活用して獣医師コンサルティングを通して

改善していけば、容易に前に進める時代になっている」と講演いただきました。

その後呉先生より実際のJASVベンチマーキングのウェブシステムを操作しながら案内いただき、入力後する反映するシステムまでバージョンアップされたことを説明されました。「JASVはベンチマーキングのシステムで利益を出す必要はない。よって、今後ベンチマーキングの会費で得られた収益はすべてシステムの改善のために投資していくつもり。日本の養豚のために少しでも有用なツールにしていきたい。そのためにはもっと数多くの農場の参加が不可欠。申し込みは全国どのJASV獣医師（9ページ参照）に言っていただくほか、JASV事務局や豚事協にお伝えいただいても可能。すでに参加されている方も他の方に呼びかけるなどしていただきたい。」とさらなるJASVベンチマーキングへの加入を呼びかけられました。

講演終了後は質疑応答がなされ、閉会后懇親会が行われました。（加藤）

## JASVベンチマーキング担当獣医師一覧（2023年8月現在）

クリニック 所在地	No	所属	獣医師名	クリニック 所在地
北海道	1	南アークベテリナリーサービス	武田 浩輝	秋田
	2	おかむらアニマルクリニック	岡村 雄司	岩手
	3	かとうスワインクリニック	加藤 仁	岩手
	4	ビッグケア	田中 正雄	宮城
中越	5	㈱スワイン・エクステンション&コンサルティング	大竹 聡	新潟
関東・東海	6	フォービッグ那須	福山 聡	栃木
	7	南サミットベテリナリーサービス	石川 弘道	群馬
	8	香川家畜診療所	香川 光生	群馬
	9	㈱バリューファーム・コンサルティング	呉 克昌	茨城
	10	末岡家畜診療所	末岡 弘行	茨城
	11	キーストンコンサルティング	岡田 久雄	埼玉
	12	㈱ビグレッツ	渡辺 一夫	千葉
	13	イデアススワインクリニック	早川 結子	千葉
	14	アニマル・バイオセキュリティ・コンサルティング	三宅 真佐男	千葉

クリニック 所在地	No	所属	獣医師名	クリニック 所在地
関東・東海	15	㈱豊洲アニマルクリニック	近田 昌男	千葉
	16	エクシュタイン・スワインサービス	宮下 マリ	東京
	17	㈱さくらベテリナリークリニック	岡田 宗典	千葉
	18	OASIS	大井 宗孝	神奈川
	19	(有)豊浦獣医科クリニック	村田 知	神奈川
	20	(有)あかばね動物クリニック	伊藤 貢	愛知
	21	川倉獣医科クリニック	川倉 裕和	静岡
九州	22	もり家畜診療所	森 正史	熊本
	23	フロントサークル㈱	田島 守	福岡
	24	岡崎動物医院	岡崎 健一	長崎
	25	シガススワインクリニック	志賀 明	大分
	26	野津手家畜診療所	野津手 麻貴子	宮崎
	27	藤原動物病院	藤原 孝彦	鹿児島

## 豚事協海外研修2023年、アメリカツアーについてのご報告（後半）

豚事協事務局 加藤 大輝

24期の海外研修として、2023年6月6日～12日の日程、参加者11名と通訳兼コーディネーターとして(株)スワイン・エクステンション&コンサルティングの大竹聡代表取締役獣医師の合計12名で実施されました。(表1)今回の海外研修先はアメリカです。前号129号からの続きです。

6月9日は朝から出発してよいよ農場見学です。カーテージベテリナリーサービスの協力を得て、実際にカーテージがマネジメントしているリサーチ農場の繁殖農場とそこから子豚が出荷されている提携肥育農場に行く予定です。場所が現在いるアイオワ州から隣のイリノイ州になるため、見学前に説明を受けるカーテージのクリニックまでまず4時間の車の旅です。アメリカ中西部、コーンベルトさすが、「Nothing State」と言われるくらい本当にトウモロコシ畑しかありません。農家の家も、養豚場らしき影も見当たりません。日本でも北海道は非常に雄大な景色ですが、ここでは本当に規模の違いに圧倒されます。このトウモロコシがミシシッピ川を下って、ニューオーリンズから出航、パナマ運河を越えて日本に輸入されている。知識としてある情報と実際の姿というのは大きな印象の違いを覚えました。

カーセージでは元大学校舎を利用した立派な事務

所で引率も引き受けてくれたクレイトン・ジョンソン先生に1時間ほど講習をうけました。カーセージは中西部を中心に獣医師コンサルティング、農場マネジメント、疫学検査、飼料栄養設計や資材販売まで行う組織で、一大養豚地帯である中西部ではほとんどの農場がなにかしらのサービスを利用しているという驚きのカバー率です。2つの母豚6000頭の繁殖場と2つの肥育豚5000頭のウィントゥーフイニッシュ（以後WtF）の肥育場を研究も兼ねて所有しています。

さらに1時間移動して繁殖農場の見学です。

名称：High Power 場所：Bowen南イリノイ州

育種：PIC 1050 母豚数：6,400頭

ウィンドレス豚舎 離乳子豚（約3週齢）を出荷

候補豚育成舎（WtF豚舎）がオンサイトにある

健康ステータス：比較的高い PRRS安定 PED陰性

特徴として経営・運用的にはコマーシャル農場で同時にカーテージ獣医サービスのリサーチ農場の一つとしても機能しているそうです。現在は母豚郡飼システムや糞尿処理システム試験をしています。スタッフは種付けは7人、分娩は分娩介護で4人（ほぼメキシコ、中南米カリブの方）、去勢～離乳までを管理するのが10人程で構成されています。スマートフォンアプリ（1人1つずつもっています）でデータ管理やタスク管理、チャット等ができるようになっており、農場長より指示が出しやすいようになっていました。外部からPS豚を導入しており、3週間に一回で350頭導入し、現在の更新率は55%。24週の300ポンド（約136kg）で発情確認を行っており、30週で種付け、種付け後はフリーストールで管理しており、給餌は耳タグによる個体識別で管理。分娩舎では一日に4回自動で餌が落ちるようになっており、不断給餌となっています。（外部への写真提示が厳しく規制されていたので写真は外観だけ）

アメリカは母乳だけで離乳すると聞いてはいましたが本当に子豚に給餌する器機がなく、この繁殖場から肥育場へ出荷された時に初めて固形飼料を食べ

表1 海外研修参加者

所属	名前
(有)松村牧場	松村 昌雄
(有)ブライトピック千葉	伊藤 広大
(有)石上ファーム	石上 由紀
(株)アーク	佐々木 翔
(有)みずの	佐藤 政広
(有)アクティブピッグ	山本 雄大
(株)林牧場	林 丈志
(有)農山畜産	農山 文康
熊本興畜(株)	堀井 保彰
(有)永峰養豚場	長峰 智浩
日本養豚事業協同組合	加藤 大輝
(株)スワイン・エクステンション&コンサルティング	大竹 聡



図① 見学繁殖農場 High Power

る姿は一同驚きを隠せませんでした。母豚の姿は全体に細く、子豚の姿も細長い形でした。分娩舎以外の候補豚舎や種付舎ではウインドレス豚舎の入気をかなり強くしており、体感的にはビュウビュウと感じる強風状態でしたが、とてもよい健康状態でこちらも驚きの連続でした。もともとこの農場はフリーストールではなく後から改修した農場で、繁殖成績は導入後やはり落ちたそうです。しかし、現状でも1母豚当たりの年間離乳頭数は34頭を超えており、フリーストールでどうやって成績をあげていくか、すでにアメリカではかなりのノウハウが集積されつつあることを目の当たりにしました。とにかく、1か所6000頭を超える母豚がいる豚舎は大きくてスケールが違いました。

衝撃の見学から移動して、引率していただいているクレイトン先生のご自宅に招待され一同で会食させていただきました。先生みずからBBQを行い、奥様はこの為にわざわざ日本食材店（イリノイ州ではなかなか近隣にはありません）で刺身と味噌汁と米を用意くださり、それを割りばしでいただくというアメリカの食事に疲れてきた参加者はみな感激しておりました。アメリカでの獣医師の地位や収入は比較的高くご自宅は中古を購入されたということですが、非常に立派で、プールにクリーク（湖畔）まで敷地という日本では少し考えられない佇まいでした。食事準備中はその湖畔で先生のご子息たちと釣り。心のこもったおもてなしに感謝しかありません。

10日は先日に見た農場から出荷された子豚が肥育されている肥育農場見学へいきました。

名称：Western Creek II

場所：LaHarpeイリノイ州

飼養頭数：5,200（1,300頭/部屋×4部屋）



図② クレイトン先生ご自宅での夕食の日本食



図③ クレイトン先生ご自宅の湖畔

ウインドレス豚舎 ピッグフロー：ウィーン・トゥ・フィニッシュ オールイン・オールアウト  
子豚供給元：High Power農場（約3週齢）  
育種：PIC 1050×PIC 337

健康ステータス：良好 直近の離乳後事故率2.4%

餌を食べても消化しきれないのと出荷時の事故が多いため、出荷前は18時間前から絶食させても可能となっており、出荷は生産者が枝重、生体重の基準が適しているパッカーを選び、目観選別のみで出荷していました。

まず農場に行ったところ、スタッフが誰一人いません。複数の農場を管理しているとのことですが常時いるスタッフはいないとのことでした。豚舎は非常に簡素で戸板は薄く、冬場はかなり寒くなるというアメリカ中西部、これで問題ないのか心配になるほどです。導入されている子豚は2600頭ずつ同じロットで次のロットは週齢がわずか1週間違うだけの状況で、いわゆるワンファームワンエイジという形式でエサのラインも1本ずつしかなく、農場にある餌は2ロットに合わせて2種類だけと極めて効率的なものでした。エサの栄養設計はカーセージが監修して



図④ 見学肥育農場 Western Creek II



図⑥ ミシシッピ川のほとりで昼食

いましたが、基本的にPICの豚なのでPIC社のマニュアルに準拠しているものと説明を受けました。段階は導入から肥育後期まで9段階でトウモロコシ、大豆粕、おそらくDDGSで構成されたシンプルなもので離乳子豚から脱脂粉乳やホエーはなくほぼ植物性です。見学時は導入2週目の35日齢と導入3週目の42日齢でした。この豚舎も前日繁殖農場で感じた強い風が入気されており、呼吸器病を罹患するのではと思うほどでしたが、咳をする豚はまったくおらず、下痢や極体に小柄な豚などもおらずいかにハイヘルスな子豚をハイヘルスな環境で育てることが有利か、豚舎が簡素だったからこそよりその部分が際立ちました。

そして、深さ約4mのスノコの下のディーブピットに溜め込まれたふん尿はトウモロコシ収穫後の11月ごろに吸い上げられて畑に散布するだけでふん尿処理が終わります。アメリカの豚舎利権は独特で、近隣のトウモロコシ農家が建物のオーナーであることが多く、飼育を管理する側は豚生体にもみ権利があるというように切り分けられており、施設に溜め込まれるふん尿はそのトウモロコシ農家のものとな

ります。彼らは貴重な肥料源として利用しており、そこに価値があるということなのです。ふん尿処理で多額な費用と苦労を要し、近隣問題まで抱える日本とはまるで正反対の状況です。「Smells like money」この臭いは価値のあるものとして認知されています。

農場見学終了後はミシシッピ川を渡り再びアイオア州に戻り、次の日11日にデモイン空港から帰国となりました。各自が大きな収穫があったと参加者からは満足の声をいただきました。旅行中は質問や議論が続き養豚漬けの日々でした。やはり日本とアメリカはまったく違う国、養豚においても前提条件が大きく違います。しかし学ぶことは大いにあった研修となりました。企画協力に多大なる力をいただきました大竹聡先生には心から感謝申し上げます。この時代実際に農場に入って見学することができ、収穫の多い研修となったのも先生の交渉のおかげです。ありがとうございました。今後も豚事協では海外研修を企画してまいります。ぜひとも今後のご参加ご検討宜しくお願い致します。



図⑤ カーテージで検査される飼料

表2 海外研修日程（今回は前半、黄色の部分）

日程	内容
6月6日	羽田出発、デモイン到着
6月7日	デモインにてワールドポークエキスポ視察
6月8日	デモインにてワールドポークエキスポ視察 スミスフィールドとミーティング JBSとミーティング
6月9日	クインシーにて繁殖農場見学
6月10日	クインシーにて肥育農場見学
6月11日	デモイン出発 翌12日羽田着

# 「矢原の部屋」はじめました。

## はじめに

みなさんこんにちは、今期から専務理事をやらせていただいている矢原です。今年4月から豚事協にお世話になりはじめ、すでに半年が経ちました。その間、3名の他の事務局メンバーに様々なことを教わりながら頑張っております。

私、前職は日清丸紅飼料（株）で、養豚の臨床検査に長年携わってきました。1986年に獣医師としての仕事を始めたときには、オーエスキー病が関東で猛威を振るい始めていた時でした。配属して数日後から、毎日養豚場にお邪魔して、ひたすら毎日採血し、抗体検査の日々でした。その後も養豚界は、1990年代には豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）、2000年代には豚サーコウイルス2型（PCV2）、2010年代には豚流行性下痢（PED）等々の新興・再興感染症に襲われ、その都度、右往左往しながら対応に迫られてきた数十年間でした。またこの間には、2010年に宮崎で発生した口蹄疫（FMD）、そして2018年9月から現在に至る豚熱の再発生と、法定伝染病にも翻弄される毎日でした。その後、日清丸紅飼料では、研究所長、技術サポート部長を務め、豚事協に来る直前には鹿児島で黒豚の種豚場の社長もやっておりました。こうした養豚臨床現場とマネジメントの両方の経験を今後の仕事に生かしたいと思っており、その一つとして今後ゆめ通信の紙面を借りて、時事の疾病の情報や、生産性向上につながる情報等を発信していきたいと思っております。過去にはピッグジャーナルなどの業界誌で10年以上連載をしていたこともありますが、その都度ネタに苦勞する日々でしたのでぜひとも皆様からの「あれについて書け」、「それについて解説せよ」とのリクエストをお願いいたします。

## 組合員の皆様に寄り添うために（「矢原の部屋」はじめました！）

専務の仕事って何なの？とよく聞かれます。組合が行っている事業の実務を担当する事務局を取り仕切っていくのが専務理事の主要な業務なのでしょうが、それ以外に、これまでの私の経験を生かして何かできないものかと考え続けております。簡単に言うと、組合員の皆様の日々の悩みや困りごとに寄り添うような仕事はできないものか、ということです。一つのアイデアとしては、組合員の皆様からのお悩み相談窓口を事務局に開こうというものです。山本副理事長からは、この窓

口を名付けて「矢原の部屋」にせよ、と言われております（「徹子の部屋」のイメージでしょうか。まずは組合員の声を聴け！という事なのでしょうね）。少なくとも豚の病気についてのご相談であれば、それはすぐに色々とお役に立つ事ができると思います。しかし、それ以外にも経営にかかわる諸問題、農場従業員の教育問題、環境に関わる課題等々、なんでも結構です。もちろんすべての事柄に私が即座に答えることはできませんが、当組合には420名を超す素晴らしい仲間がおります。そしてその仲間は、いつも自分の持っている情報を惜しまずに共有してくれる素晴らしい文化があります。それぞれの問題に素晴らしい答えを持った方々から情報を頂いて、皆様のお悩みに答えていく窓口になりたいと思っております。まずはお気軽に事務局の矢原宛にお電話（03-6262-8990）かメール（yahara@tonjikyo.or.jp）でご連絡下さい。実はもうすでにいくつかのご相談を頂いております。特段何かの申し込み窓口があるわけではないので、気軽に「矢原の部屋」で世間話をしましょう。

## もう一つお知らせがあります（PRRSフォーラムの事）

豚事協にお世話になる際に私から松村理事長にお願いしたことがあります。それはこれまで関わってきた養豚衛生に関するいくつかの研究会の事務局や幹事職を継続させていただきたいという事でした。豚事協の専務理事としては、もっと包括的な視野でお仕事をしなければなりません。その中でも、一つの核として家畜衛生に関する情報を研ぎ澄ませ、それを組合員の皆様に還元していきたいとの思いです。

特にPRRSについては、その原因ウイルスが発見されてから30年以上経た今も、依然として養豚生産の大きな足かせとなっています。世界中の養豚関係者がその克服へと努力し、いくつもの成果を挙げつつあるところですが、その実現にはいくつものハードルがあります。これらのハードルを乗り越えるには産官学の相互が連携して情報共有を図る必要があります。この度、日本のPRRSに関わる有志の方々が立ち上がり、PRRSフォーラムという組織を立ち上げました。その詳細は、ホームページをご覧くださいと思いますが、12月4日につくば国際会議場において、その第1回の本大会を開催予定です。奮ってご参加いただきたいと思います。

(<https://sites.google.com/view/prrsforum>)

## 豚事協支部セミナーのご案内

テーマはJASVベンチマーキングを通して勝ち残る養豚経営に向けてと行います。  
豚事協が推奨する飼料、種豚、精液、資材の最新情報に加え、賛助会員からの最新情報も提供いたします。  
組合員は参加費無料で懇親会費が5,000円です。奮ってのご確認よろしくお願ひ致します。

### ① 中部支部セミナー（懇親会費用は6000円）

日時：2023年12月1日（金）13：30開始、懇親会17時30分  
場所：TKPガーデンシティ PREMIUM名古屋新幹線口  
講師：(有)稲波ファーム・鹿熊修氏、(有)サミットベテリナリーサービス獣医師・数野由布子氏



名古屋

### ② 九州支部セミナー

日時：2024年2月9日（金）13：30開始、懇親会17時30分  
場所：熊本市内（会場未定）※決定次第申込者に連絡致します。  
講師：(有)みずの・水野慎太郎氏、(有)アークベテリナリーサービス獣医師・武田浩輝氏



熊本

### ③ 沖縄支部セミナー

日時：2024年3月1日（金）13：30開始、懇親会17時30分  
場所：那覇市内（会場未定）※決定次第申込者に連絡致します。  
講師：秋山養豚場・秋山大輝氏、(有)サミットベテリナリーサービス獣医師・石川弘道氏



沖縄

### ④ 中四国支部セミナー

日時：2024年3月22日（金）13：30開始、懇親会17時30分  
場所：ホテルトップイン松山  
講師：(有)日野ミートファーム・日野光総氏、(株)ホグベッククリエイション獣医師・大久保光晴氏



松山

## 豚事協の第24期行事

### 理事会

第 1 1 5 回	令和 5 年 6 月 15 日 (木) (東京)
第 1 1 6 回	令和 5 年 7 月 28 日 (金) (東京)
第 1 1 7 回	令和 5 年 7 月 28 日 (金) (東京)
第 1 1 8 回	令和 5 年 9 月 21 日 (木) (東京)
第 1 1 9 回	令和 5 年 12 月 21 日 (木) (東京)
第 1 2 0 回	令和 6 年 3 月 14 日 (木) (東京)

### 豚事協セミナー

北海道支部セミナー	令和5年9月15日（金）
東北支部セミナー	令和5年10月6日（金）
関東支部セミナー	令和5年11月2日（木）
中部支部セミナー	令和5年12月1日（金）
九州支部セミナー	令和6年2月9日（金）
沖縄支部セミナー	令和6年3月1日（金）
関西中四国支部セミナー	令和6年3月22日（金）

### 女性部

第16回女性部セミナー	令和 5 年 日程未定
-------------	-------------

### その他

海外視察研修	令和5年6月6日～12日（アメリカ）
--------	--------------------

※青字は令和5年11月1日以降の行事となります。都合によっては変更・中止となる可能性がありますこと、ご了承下さい。

### 編集後記

\*\*\*

外国人観光客が日本に大幅に戻ってきたと連日の報道でなされています。日本政府観光局（JNTO）によりますと「8月の訪日外客数は、2019年同月比85.6%の2,156,900人となった。回復率では前月（2023年7月）を上回り、新型コロナウイルス拡大後初めて8割を超えた。23市場中13市場において、2019年同月の訪日外客数を上回っており、特に東アジア地域では香港、東南アジア地域ではインドネシアやフィリピン、欧米・中東地域では米国やカナダ等で訪日外客数が増加したことが回復率の押し上げ要因となった。」として国によってはすでにコロナ前より訪日数が増えているそうです。秋が深まってくれば紅葉です。ぜひとも海外からいらっしゃる方にも日本の紅葉をみていただきたいものです。日本には全国に名所がありますが、それもそのはず落葉樹でしか紅葉は見ることが出来ず、落葉樹が多く存在している地域は、世界でも東アジアやヨーロッパの一部、北アメリカに限られており、さらに日本の落葉樹は世界で最も多く、北米カナダが13種類、欧州13種類に対し、日本は26種類もの落葉樹が存在するからだと思います。急峻な山間が多くその景色がみせる絶景があることも違いかもしれません。私が住んでいるつくば市のすぐ近所で農研機構の研究所在ち並ぶ場所はモミジパワが街路樹で11月の紅葉は壮観です。紅葉の葉のような星型の葉でサイズはより大きく樹も背が高い樹で10円玉くらいの実をならして落とします。それが黄色に色づき立ち並ぶ姿に惚れ込んで今の場所に住んでいるほどです。名所観光も素晴らしいものですが、近所にある「小さな秋」を見つけにちよっと散歩というのもこの時期は乙なものですね。そして冷えた体には豚肉のお鍋と日本酒が欠かせません…（加）